

山行報告書

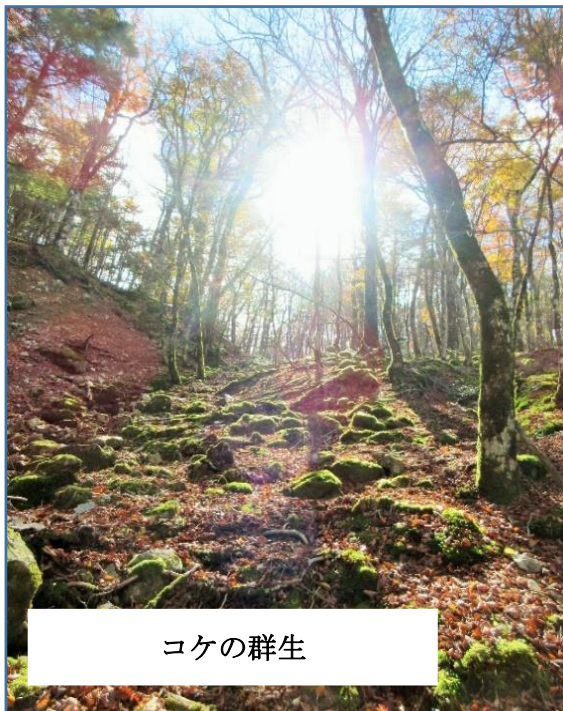
京都田辺山友会

報告者 小川

山名	後期高齢者Gに依る紀伊半島縦断の山旅		山行名	個人山行
ルート	1日目:京田辺→大台ヶ原(西大台コース)→下北山スポーツ公園宿舎 2日目:下北山宿舎→紀州・古座町・嶽の森山→グランドメルキュール和歌山・南部 3日目:ホテル→和歌山海南・生石高原→ポルトヨーロッパ→京田辺			
山行日	2024年11月6日～8日		天候	晴
参加者	リーダー:小川(77才) サブリーダー:若林(78才) メンバー:山下(85才)・廣瀬(74才)・植西(92才) 計5名(平均年齢 81.2才)			
コースタイム	1日目:京田辺(6:00 発)→大台ヶ原(9:00 着)→講習後登山開始(9:36)→七つ池(10:55)→開拓跡(12:00)→駐車場(14:37)→下北山スポーツ公園宿舎(16:00) 2日目:下北山宿(8:00 発)→古座町一枚岩(10:30)→登山口(10:48)→ナメトコ岩(11:30)→雄岳(12:10)→雌岳(13:25)→一枚岩(14:40)→ホテル(16:00) 3日目:ホテル(8:00 発)→生石高原P(9:30)→生石高原頂上(10:30)→駐車場(11:00)→ポルトヨーロッパ(12:10)→京田辺(15:00)			
	<p>当初の計画では春の桜の季節に行こうと考えていたが昨年末の大雨で国道 169 号線が通行止めとなり、この秋の実施となった。</p> <p>幸い天気にも恵まれ大台ヶ原ビジターセンターには9時過ぎに着き、西大台コースの入山のためのレクチャーを15分程受け、登山開始。大台ヶ原には何度も来ているが植西翁以外は初めてである。レクチャー通り反時計周りのコースを選び、ヒノキとミズナラ林の中を中の谷に向い100m程下って行く。中の谷でヘヤピンカーブを曲がり西方行に更に下るとブナ林やコケの群生地が現れる。朝の光に照らされたコケの群生は非常にキレイ。ヤマト谷のせせらぎを渡ったところで昼食を取る。</p> <p>その後暫らく歩くと開けた開拓跡に出る。明治時代に開拓が試みられたが厳しい自然条件のため、頓挫したとのことであるが、何故この山奥に???と考えるが明治の頃は自分が開拓した土地は自分の物になる時代があったゆえ??? 今回は時間の関係で展望台には寄らずに開拓分岐から高低差約270mをひたすら登り駐車場に戻る。本日他の登山者と出会ったのは4人だけ。</p> <p>その後、1時間半程掛けて上北山村スポーツ公園の宿舎に辿り着く。平日でもあり、15畳の部屋に2人と3人に分かれて宿泊。夕食後、恒例の宴会となる。</p> <p>2日目は熊野の鬼ヶ城の近くを通り、紀伊半島の先端を周り、古座町にある国の天然記念物となっている一枚岩を目指して走る。この「1枚岩」は約高さ100m巾500mの1枚の岩で出来ておりマグマが噴出して出来たものでこの一帯にはこれ以外にも大きな巨岩がアッチコッチ。</p> <p>嶽の森山はこの1枚岩と向かい合って聳え立つ、関西100名山の1つで有り、双耳峰の山。誰も登ったことがなく、地図を頼りに登山口を探す。コースタイムは3時間・距離は4.5km・標高は376mとなっており、大したことはないと思って登りだしたが、写真を見れば分かると思うがトンガリ帽子の双耳峰でアッチコチにロープが張られ急登が続く。30分程登った所に200m程も続くナメトコ岩があり、滑りやすいが親切に滑りにくい様に岩が削られており踏み外さない限りは大丈夫。約1時間掛けて雄岳の頂上に着く。そこで昼食を取り一休み。それから急降と急登で雌岳に登り、その後再び急降を経て無事1枚岩の駐車場まで辿り着く。その後、今日のホテルまで約1時間半掛けて辿り着く。ホテルは飲み放題・食い放題でマタマタ宴会。</p> <p>3日目はススキで有名な生石高原に立ち寄り、少し遅まきながらススキの高原を散策。時間が余ったので海南市のテーマパークであるポルトヨーロッパに立ち寄り昼食を取りその後、無事帰宅。</p> <p>天気と仲間と季節に恵まれ、ゆっくりと楽しい山旅が出来ました。有難うございました。</p>			
	ヒヤリハット: なし			

<山旅感想>

自分にとっては今年最後の大きな山行となる。春に計画していたがようやく実現に至った。紀伊半島をぐるりとめぐるのは何回かあり、山友会では大辺路の山旅を思い出す。今回は逆回りで、西大台→嶽の森山→生石高原→大阪。いずれも初めての山で楽しみだった。紀伊半島は自然豊かでいつ来ても裏切らない。体力が衰えてきた高齢者にとっては大きな山での目いっぱい縦走はすでに難しいので、今回のように宿に泊まりながらの所要時間は数時間以内でのトビトビ縦走はベストな計画のように思う。心地よい宿泊も保証してくれるし、運がいいと温泉付きだ。



コケの群生

あるナメタキ歩きは安全対策もなされていて爽快そのもの。一転してその後の雄・雌嶽は訓練に良くいく金毘羅山のごとくで、気が抜けない登山道が続いた。日帰りは難しいがぜひおすすめめの山でした。但し、雨の後は危険だろう。

三日目は無理しないハイキングの生石高原。頂上まで車で行って、曾爾高原より広いススキの高原。好天に恵まれたので 展望は360度。有田 IC からの道すがらの道脇にはみかんや柿の無人スタンドがあり、品定めしながらの道中も楽しいひと時だった。

和歌山県みなべ生まれの CL は土地勘もあり、素晴らしい計画と安全運転ですっかりお世話になりありがとうございました。

山下



紅葉の中を歩く

東大台が原は何回か行っているが西大台が原は行きにくいので初めてだった。登山口には宿泊施設も再開していて 行きやすくなっていた。最近の例会で西大台を日帰りした情報もありがたかった。苔道と残り紅葉と 芦生の森のようなところもたくさんあり 静かな秋を堪能できた。

二日目の「嶽の森山」は低山ながらなぜか関西百名山？ 行ってみてその理由が解った。200m 近く



生石高原

一口感想文

若林

大台ヶ原東コースには過去何度かウオークも、今回は初 西コースウオークに興味津々。事務費を取っているだけに、環境は良く整備されて5時間あまり楽しいトレッキングコースであった。

翌日の一枚岩コース低山では有るも鎖場もあり全く真逆コース。宿泊地も此処に変化有り思い出多い山行であった。

数年前同じメンバーで雪山綿向山登山実施時の参加者平均年齢は78歳も今回は81歳。長老様お二人は、ウオークも夜の宴会も全く衰えるお姿すら見られず他三名が元気を貰える羽目に成った。

二日目の宿泊地 グランドメルキュール和歌山南部 安価な上、温泉大浴場 アルコール(ビール、ワイン 白 赤、お酒、焼酎、梅酒)等全て飲み放題。8階の5人部屋から見える太平洋。朝にはご来光。

車にて移動中、安価な柿・蜜柑調達。過去登山会では味わった事が無いゆかいな仲間との登山&観光であった。



600km あまり、お一人で安全運転走行を頂いた小川さん本当にお疲れ様でした。ご参加の皆さんとご一緒出来た今回の登山&観光企画に改めて感謝致します。来年度は新たな登山&観光を企画致しますので乞うご期待。

感想文

老人山旅行 2 日目は、古座川一枚岩近くの嶽の森山に登ってきました。雄山 376M、雌山 369M 双耳峰です。低山ですが関西 100 名山に入っています。古座川の上流一枚岩道の駅に駐車。目の前に一枚岩が聳えている。スマホで写真に撮ろう



廣瀬(秀)



と思うが、おさまらないのであきらめました。

あまり登山者がいないのか、登山口がなかなか見つからない。ようやく脇道に入ったところで小さいが新しい登山口の標を見つけて分け入る。急登の狭い九十九折りの道の連続で、

すぐに汗が噴き出して来る。



ナメトコ岩

30分ほど登ったところで一枚岩のナメトコ岩にでる。水が流れているが流れの端に歩幅に合わせてステップが刻まれているので安心して登れたが、苔が生えているところを徒渉する際は滑りやすいので緊張しました。ここを下りで使ったらロープがないと危険だと思う。

ナメトコ岩を過ぎると再び荒れた狭い道の急登が続く、道標はしっかり設置されているので迷う心配はない。ようやく雄山山頂に。7～8名が休憩できる程度の広さ、東側には幾重にも山が連なって山の深さを感じた。どれかが高野山らしい。眼下に雌山が見える。のんびり食事をとり40mほど急坂をロープ伝いに下って鞍部に。目前に雌山。右は一枚岩への下山口。

雌山は岩山である。岩肌の凹凸、木の根、立ち木をつかんで20m程度登りきったところで大岩に到着、裏に回り上ると小さな祠が置かれておった。そこが山頂である。狭い。岩の突端に立つと景色は広がっていたが、下を見ると足がすくむ。慎重に鞍部へ降りる。数日前にY険訓練を行ったことが、本当に役に立った。鞍部からの下山口への道はいきなりロープが張られており、頼りに10mほど下る。ここからは登りより傾斜は緩く、比較的道はひろい。約4時間かけて下山。

さすがに関西100名山の一座です。なめたらいかんぜよ！改めて納得。+

高低差は少なく距離も短いが、急峻な山でアップダウンあり、岩場あり、徒渉あり、ロープあり、鎖場あり、緊張の連続でした。

西大台ヶ原、嶽の森山、生石原と3日間の旅でしたが天気に恵まれ最高の旅でした。生石原から帰京の道すがら数軒無人販売所に立ち寄って、みかん、柿の買い物ツアー。老人5人が人目を気にせずはしゃいできました。



雌岳から見た雄岳